

八潮市学校施設長寿命化計画 概要版

1 学校施設の長寿命化計画の目的等

目的：学校施設が保有する建物や設備等の経年劣化を計画的に改善し、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図ること、また、教育環境の質的向上、バリアフリー化、防災機能の強化、省エネルギー化等、これからの学校施設に求められる機能及び性能を確保することを目的とします。

計画期間：令和3年度から令和32年度までの30年間とし、概ね5年ごとに計画の見直しを行います。

対象施設：市立小学校10校、中学校5校の合計15校とします。

2 学校施設の実態

◆児童生徒数及び学級数の推移

市内の多くの小中学校においては、今後30年間、児童生徒数の増減はあるものの、学級数は概ね横ばいで推移する見込みです。

その一方で、市の南部に位置する八潮駅の周辺を通学区域とする大曽根小学校、大瀬小学校、潮止中学校については、今後、概ね20年間に亘り児童生徒数が増加し、これに伴う学級数の増加により、教室不足となる可能性が示されており、地域によって状況が大きく異なります。

◆運営状況・活用状況等の実態を踏まえた課題

1 今後の施設関連経費の縮減

昭和40～50年代にかけての施設整備時期が集中しているため、今後、これらの施設の老朽化対策に多額の経費が必要となります。改築は費用負担が大きいので、改修により建物を可能な限り長く使用し、経費の縮減を図る必要があります。

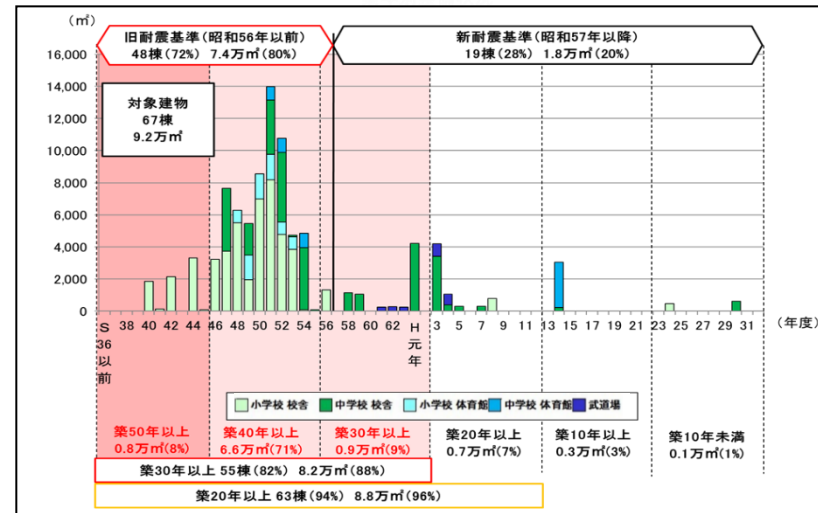
2 年度別の施設関連経費の平準化

年度によって経費に大きな差がある場合、予算の確保が難しくなるため、改築や大規模改造等の施工時期を調整し、経費の平準化を図る必要があります。

3 学校施設の規模適正化

学校施設の規模は、維持管理費に大きく影響することから、学校施設の統合や分離新設等についての方針が示された際には、減築等による施設規模の縮小を検討する必要があります。

◆築年別整備状況



◆老朽化状況の実態を踏まえた課題

1 老朽箇所の計画的な改修

屋上や外壁の劣化、雨漏り等が発生しており、老朽化への対応の遅れは施設の耐用年数にも影響することから、計画的な改修を進める必要があります。

2 施設環境の質的向上

現在の生活様式や学習内容に対応した施設となるよう、トイレ洋式化や授業ICT化等の施設環境の整備を進める必要があります。

3 避難所としての防災機能強化

災害時における避難所としての安全性、快適性の観点から、体育館について、建物外周部の鋼製窓サッシの改修やトイレ環境の改善を進める必要があります。

4 学校施設のバリアフリー化

誰もが利用しやすい施設となるよう、多目的トイレ、乗用エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化を進める必要があります。

3 学校施設の目指すべき姿

安全で快適な学校施設

学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす生活の場であることを踏まえ、施設の安全性や防犯に配慮するとともに、快適な生活環境の整備を進めます。

多様な学習内容・学習形態に対応する学校施設

近年の少人数指導、習熟度別学習、学習教育の情報化 (ICT化) 等の学習内容等の多様化へ対応できる教育環境を整備を進め、教育環境の質的向上を図ります。

地域の拠点としての機能を備えた学校施設

コミュニティスクール及び災害時における避難所として、誰もが安全で利用しやすい環境の整備とともに、避難所としての施設整備を進めます。

環境へ配慮した学校施設

省エネルギー性能の優れた設備の導入を推進するとともに、太陽光等の自然エネルギーの活用を検討し、環境負荷低減に配慮した学校施設を目指します。

4 学校施設整備の基本的な方針等

◆学校施設の長寿命化計画の基本方針

学校施設の規模、配置等の最適化

「八潮市学校適正配置指針・計画」で示される学校の統合や分離新設等の方針等に基づき、施設の改築や改修における整備内容を検討し、学校施設の規模、配置等の最適化の実現を目指します。

計画的な維持管理による学校施設の長寿命化

不具合が発生する前に改修を行う「予防保全」型の計画的な維持管理により、施設の長寿命化を図り、今後の施設整備に係る財政負担の軽減及び平準化を目指します。

安全で快適な学校施設の環境整備の推進

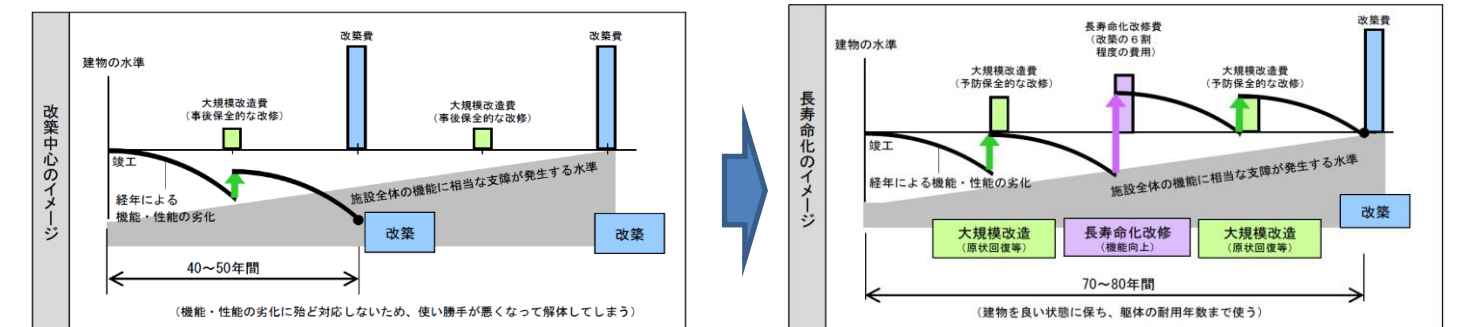
「予防保全」型の維持管理により施設の安全性を確保するとともに、バリアフリー化や環境負荷低減等の社会的要求に対応する改修を行うことで、建物を良好な状態に保ちながら、より良い学校施設の環境整備を進めます。

◆学校施設の規模・配置計画等の方針

「八潮市学校適正配置指針・計画」に基づき、今後実施する改築や長寿命化改修、大規模改造等の機会をとらえ、建物の規模の縮小等を検討します。

◆改修等の基本的な方針

従来の改築を中心とした施設整備では、財政上の負担が大きく、老朽化対策を実施していくことが困難であるため、長寿命化が可能な建物については、改築よりも工事費が安価な長寿命化改修による施設整備への転換を図り、中長期的な維持・改築等に係るトータルコストの削減を目指します。



5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

建物の機能回復及び耐久性向上に関する整備水準

- ・躯体の状況に応じたコンクリート中性化対策
- ・老朽化した屋上防水、外壁等の改修
- ・水道、電気、ガス管の改修 等

建物の機能や性能の向上に関する整備水準

- ・トイレ洋式化、バリアフリー化
- ・多目的スペースやICT環境の整備
- ・施設の省エネルギー化 等

6 長寿命化の実施計画

◆改修等に関する優先順位付けの基本的な考え方

優先順位 1 劣化状況調査による健全度が低い建物を優先

優先順位 2 築年数が古い建物を優先

優先順位 3 大規模改造年度が古い建物を優先

※ 整備状況（トイレ洋式化率等）が他校に比べて著しく低い建物は、上記によらず早期の改修を検討します

◆中長期の実施計画

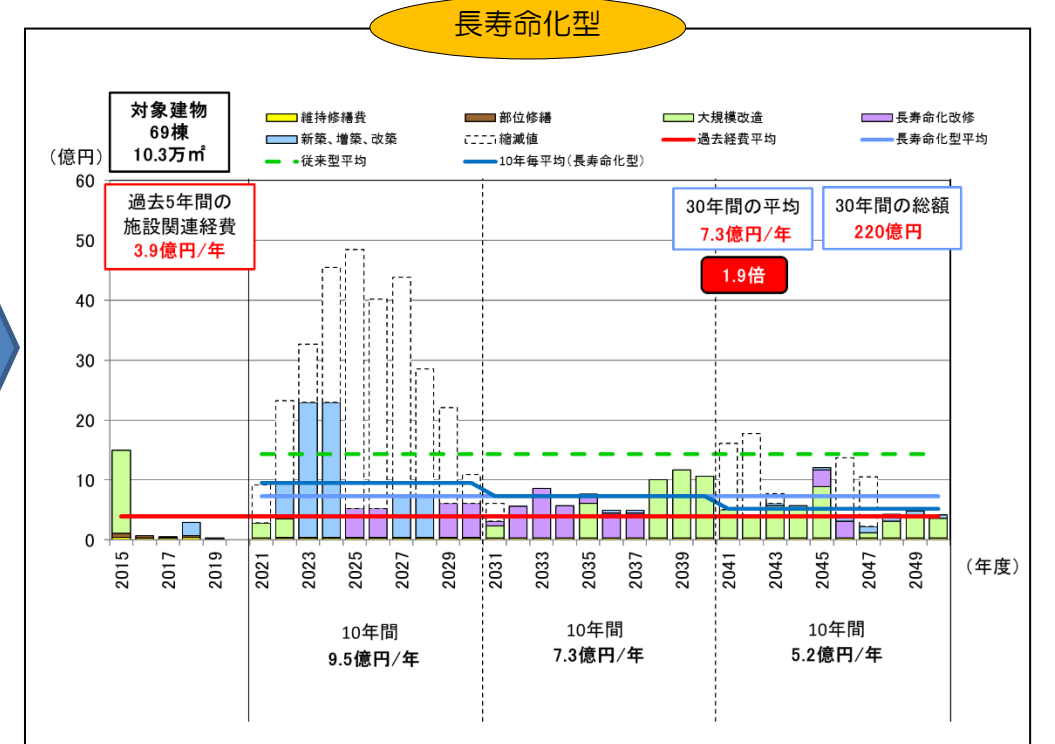
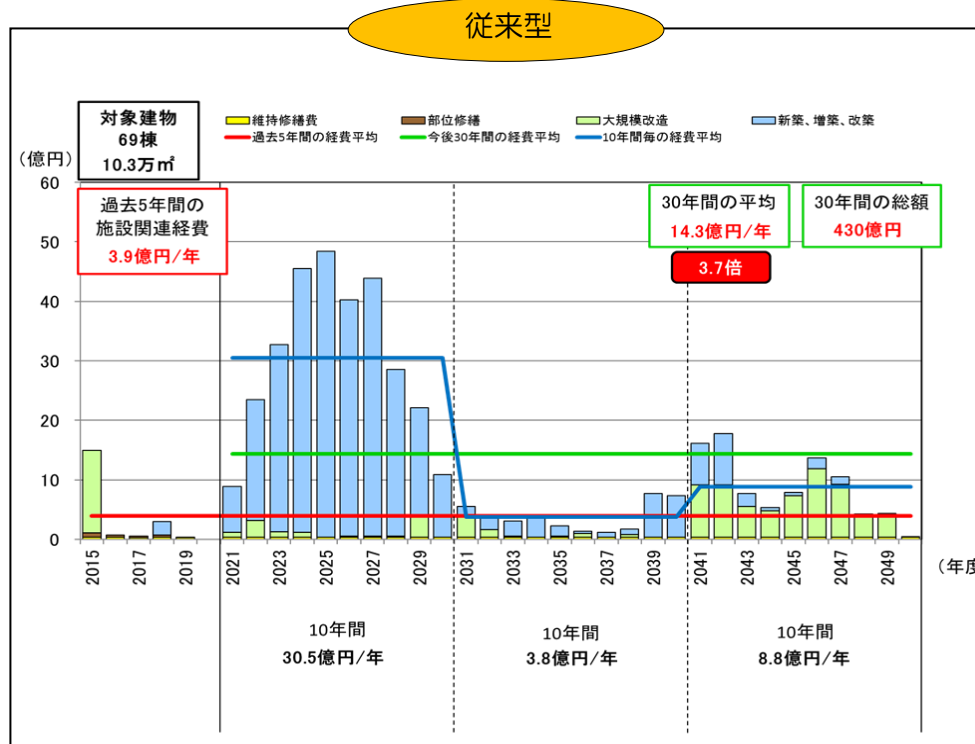
施設名	建物名	第1期 (令和3~12年度)	第2期 (令和13~22年度)	第3期 (令和23~32年度)	
小学校	八條小学校	校舎-1	大規模改造	大規模改造	
		校舎-2	大規模改造	大規模改造	
		体育館	大規模改造	大規模改造	
	プール付属室	部位修繕			
	潮止小学校	校舎-1		大規模改造	
		校舎-2		大規模改造	大規模改造
		体育館		大規模改造	大規模改造
	プール付属室	部位修繕			
	八幡小学校	校舎-1	改築		大規模改造
		校舎-2	改築		大規模改造
		校舎-3		大規模改造	
	体育館	長寿命化改修		大規模改造	
プール付属室	部位修繕				
大曾根小学校	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	体育館		大規模改造	大規模改造	
プール付属室	部位修繕				
松之本小学校	校舎-1	長寿命化改修		大規模改造	
	校舎-2		大規模改造		
	体育館	長寿命化改修		大規模改造	
プール付属室	部位修繕				
中川小学校	校舎-1		大規模改造		
	複合棟		大規模改造	大規模改造	
八條北小学校	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	体育館	長寿命化改修		大規模改造	
プール付属室	部位修繕				
大瀬小学校	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	体育館		大規模改造	大規模改造	
プール付属室	部位修繕				
大原小学校	増築校舎	増築			
	校舎-1	長寿命化改修		大規模改造	
	校舎-2	部位修繕	改築		
校舎-3	長寿命化改修		大規模改造		
体育館		大規模改造			
プール付属室	部位修繕				
柳之宮小学校	校舎-1		大規模改造		
	体育館		大規模改造		
プール付属室	部位修繕				
新設小学校	新築校舎等	新築		大規模改造	
中学校	八潮中学校	校舎-1	長寿命化改修	大規模改造	
		校舎-2	長寿命化改修	大規模改造	
		複合棟	長寿命化改修	大規模改造	
	部室	部位修繕		改築	
	武道場	長寿命化改修			
	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	校舎-3	大規模改造			
	体育館	大規模改造		長寿命化改修	
	武道場	部位修繕		改築	
	プール付属室	部位修繕			
	八條中学校	校舎-1	長寿命化改修		大規模改造
校舎-2		長寿命化改修		大規模改造	
体育館		長寿命化改修		大規模改造	
部室	部位修繕		改築		
武道場	部位修繕		改築		
プール付属室	部位修繕				
八幡中学校	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	体育館		大規模改造		
武道場	長寿命化改修				
プール付属室	部位修繕				
潮止中学校	校舎-1		大規模改造		
	校舎-2		大規模改造		
	体育館		大規模改造		
部室	部位修繕		改築		
武道場	部位修繕		改築		
プール付属室	部位修繕				

◆長寿命化のコストの見通し

従来の改築中心の施設整備計画に基づく試算では、今後30年間に必要となる維持・更新コストについて、総額430億円、年平均14.3億円で、これは過去5年間の施設関連経費の年平均3.9億円の3.7倍となります。特に今後10年間に多くの建物が改築時期を迎え、一時に多額の経費が必要となることが見込まれるため、財政負担の観点から計画実施は困難です。

このため、長寿命化改修の採用と併せて、優先順位に基づく施設整備時期の調整等を行うことで、経費の縮減及び平準化を図ります。

長寿命化改修を採用した中長期の実施計画に基づく試算では、今後30年間に必要となる維持・更新コストについて、総額220億円、年平均7.3億円と試算されています。



◆長寿命化の効果

長寿命化改修を採用した中長期の実施計画に基づく試算では、今後30年間に必要となる維持・更新コストは総額220億円であり、従来型に比べて、総額210億円のコスト縮減が見込まれます。

また、各年度における経費についても、新設小学校の建設に係る令和5年度及び令和6年度を除いて概ね平準化を図ることができます。

◆維持、更新の課題と今後の方針

- 施設規模縮小の検討
 - …「八潮市学校適正配置指針・計画」において示される方針に基づき、改築や改修等の時期に合わせて施設の統合や減築等の検討し、適正な施設規模を保ちながら、経費の削減を図ります。
- 継続的な計画の見直し
 - …定期点検等により施設劣化状況を適時把握し、その時の劣化状況や財政状況に応じた合理的な対策ができるよう継続的な計画の見直しを行い、経費の縮減及び平準化を図ります。

7 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

各建物の整備履歴や劣化状況等の情報について、施設の劣化状況調査や定期に実施している法定点検等の結果について整理、蓄積するとともに、毎年作成している「公立学校施設台帳」を活用し、本計画の見直し及び更新を行うための基礎資料とします。

2 推進体制等の整備

本計画については、学校施設を所管する教育委員会を中心に推進していきますが、学校や庁内の関係部局と連携することで、より効率的な運用を図ります。

3 フォローアップ

学校施設の長寿命化の推進については、計画期間内に定期的にフォローアップを実施し、計画の進捗状況等を把握するとともに、進捗状況等を踏まえて、5年程度毎を目安に計画の更新を実施します。